

若い人たちの愛称

# 最上川 縁結びロード 舟下り

## —最上川舟下り義経ロマン観光—

日本で最初のトラベルノーベルと言われ、映画化にもノミネートされた

小説「五月雨の頃」その舞台となった **縁結びステーション 高屋駅** **縁結びのりば 高屋乗船場**

**縁結びライン 義経丸の船旅** **縁結び神社 仙人堂** **文学いっばい 白糸の滝** が、点から線に、そして

面となり、歴史・文学・自然いっばいの最上峡全体が縁結びロードとなつて注目！そこを旅すれば、なぜか新しい出会いが始まります。

※国土交通省・山形県の許認可のもとで運営 ※全船賠償保険に加入 ※仙人堂の滞在時間は自由。

小説「五月雨の頃」著者芳賀由也より  
誰だっけ一度は、作歌や歌手になりたいと夢を見る東京という大都会のビル谷間で、毎日忙しく行き交う、まったく見知らぬ人の女性がある偶然のきっかけから、一つのテーマを出発して、最上川・仙人堂へ旅に出た。そして新しい出会いが始まった。まさかその出会いが夢にまで描いた道を彼女たちに歩ませようとは……。淡い新緑に包まれた五月、みちのこ山形を舞台に繰り広げられるドラマティックな出会いの数々。芭蕉、義経、仙人堂。満々と水をたたえた最上川の清流が、四人の女性を輝やかな歴史ロマンへと誘い、新たな人生の旅へと導いていく。彼女たちが母なる最上川で出会ったものは……。

この小説が新たな地域興しに 四六判/198頁  
「五月雨の頃」のイメージング 「雨の最上川」も大人気  
最上川義経ロマン観光社長 芳賀由也 著

**白糸の滝**

全長123m、白糸の滝ドライブイン館内から必見！レストラン、売店有。乗船受付のある高屋駅へR47新庄方面へ車で約3分。  
◎芭蕉の紀行文「奥の細道」や「義経記」に紹介されています。

**縁結びステーション高屋駅**

◎「駅なのになぜ乗船受付が…」  
◎駅から乗船場まで徒歩2分。  
◎眼下に広がる最上川は必見。

**縁結びのりば高屋乗船場**

◎何もない日本一素朴な乗船場。  
◎「タバコのやめられる石」も誕生。

**パワースポット縁結び神社**

行列のできる仙人堂わき水コーヒー

**仙人堂での楽しいひととき**

東京の紅葉が始まる頃、なぜかこの紅葉も始まる。

素敵な人と一緒に御礼参り  
子宝が授かったと友達と一緒に御礼参り

**縁結びライン 義経丸船上でのひととき**

芭蕉を「奥の細道」へ決断させた最上川  
芭蕉が詠んだ句の中で人気No.1の最上川  
夏・舟下り船

◎女船頭のガイド案内・歌声に感激  
◎4万回達成のガイド案内も指名可  
◎60分はあっという間に過ぎます。  
◎上りと下りの風景は全然違います。  
◎最上川を舟で上った人は義経、下った人は芭蕉。

# なぜ縁結びロードとなったのですか。 小説「五月雨の頃」の著者と小説に登場する4人の女性から、縁結びロード誕生の秘話を語っていただきました。

著者 芳賀由也

酒井 静 恋愛・健康・幸せ・仕事の良縁を願って、最上川縁結びロード舟下り(若い人たちの愛称名)に来ましたが、高屋駅、高屋乗船場、舟下り、仙人堂のコースを、小説の舞台地として、「縁結びロード」を全国に発信したのはどんな理由からですか。とても素敵な名前です。

著者 私は、義経ロマン観光の社長もしております。約40年前、寒さを商品にした雪見船を就航し、それ以来乗船上で4万回のガイドを達成しました。最上川にはそれ以上に良いところがある2社の舟下りがあることを知らない人があまりにも多いのです。従ってもう一社の魅力がなかなか表に出てきません。その反面リピーターのことを強調された。例えば過去15年間の最上川舟下り利用実績を見ますと約400万人です。(4年前、戸沢村より最上川舟下りは東北の主要観光地である、正しい情報を発信すれば、山形県に再度足を運びリピーターになるんです。弊社は国土交通省、国土交通省、建設省、山形県などの運輸許可を得、事業を営んでいます。途中、仙人堂に寄港するにも各市町村長印の入った賛同書を添えて、国土交通省に地域に寄与しなければなりません。だから公的意味合いから地味に寄与しなければなりません。小説を書くようになったのもこのように背景がそうです。コースの異なる楽しい舟下りを知ったならば、必ずリピーターが増えることを確信するからです。高橋真理 一般河川で船を運航することは、公的意味があるのですね。出会いって不思議です。電車の中で外の風景を見ながら、話をすることなくお互い顔を見合わせていた。それが高屋駅にいた人から、仙人堂に行くにはどう行けばいいのよ、と聞いたこと。最上川を舟でさかのぼっている時、歌手の道を目指していた私に、ふと川の流れが教えてくれた。「あなた、歌手ではなく音楽プロデューサーを目指すべきだよ。」今思えば、歌手と舟でさかのぼって行く時の風景が、末広がりのように美しく見え、下り舟では見られないのかもしれない。今思えば、舟下りを体験したから言える。背景は船頭たちが家族に着く時、急流の川をさかのぼる言える。早く子供や妻に会いたいから、自分の時をうけ、よく働きます。早めに歌った作業歌が最上川舟唄なんです。「昇り龍」や「鯉のぼり」の意味がわかりました。

岡本景子 最上川を訪ねてみて、パワースポット・縁結び神社の仙人堂のことがよく理解できました。義経たちが休めた所で、従者の常陸坊海尊が建立し、このことがNHK大河ドラマ「源義経」でも紹介されたんですね。義経ロマン観光のパンフレットと出会わなかったら、義経と最上川の関係を知りませんでした。1枚のパンフレットから、卒論を書く材料が最上川にあると旅立ちました。仙人堂は義経が奥州平泉藤原秀衡と出合ったロマンの場所でもあるんですね。義経は奥州平泉藤原秀衡と出合った時、最上川を舟で上り、芭蕉は義経を偲びながら下った。芭蕉の「奥の細道」の旅は、義経の足跡を訪ねる旅でもあったことが、仙人堂に来てよくわかりました。それに芭蕉が「五月雨を集めて涼し最上川」を「早し最上川」と考え直したのが仙人堂だと知って感動しました。仙人堂の前の舟でさかのぼった時は見えた風景が、素晴らしかったです。小林麻美 高屋駅から眼下に見る風景が、素晴らしいです。高屋乗船場から眼下に見る風景が、古今和歌集の「最上川」に文学に最初に表れた風景と知って感動しました。酒井 静 「芭蕉も飲んだのでは」という、行列のできる仙人堂わき水コーヒーを編み出した人に会いたく、最上川にやってきました。来てみると、その人が発想した「縁結びロード」を訪ねるでいいなと思った。それに、船でしか行けない大自然の「野外カフェ仙人堂公園」で、わき水コーヒーやスイーツを楽しむ人でいっぱいでした。(世界で初めての喫茶店は、トルコのコンスタントノブル(1552年)、フランスの「号店はバリの「カフェ・プロコップ(1686年)」。一人のちよつとしたアイデア・行動が、計り知れない地域興しになるんだと教えられました。観光資源とはまさに人なんだと知り、ああ、あの人が会いたい」という意味がわかりました。多くの人に動いた人です。

著者 「仙人堂わき水コーヒー」がこんなにも行列ができるまでに有名になったのは、埋もれていた仙人堂年間も旅を持って泥まみれになり整備し、理もれにたいして、仙人堂は「私(芭蕉)はコーヒーを飲んだよ。一杯のコーヒーを通して、水つまり自然保護の大切さを教えて下さい」と以心伝心となって私たちの心に伝わってきた。日本人で最初に自然環境保護を問いかけた人は、芭蕉なのかもしれません。

酒井 静 「芭蕉もコーヒーを飲んだのでは」という旅の疲れを癒してくれる素晴らしい発想は、旅人に夢、ロマンを与えてくれます。あらゆる仕事に携わっている人たちに、分かりやすい参考例として説得力があると思います。

小林麻美 急流の最上川を舟でさか上り、下ると仙人堂に立ち寄り。私は全国の川でこのような体験ができる所はないと思います。下りだけだと、テレビのコマーシャルにもなったように「クリップを入れたいコーヒー」を思い出し、笑。舟で上り、下り、仙人堂を訪ねることが、舟運時代のハード面とソフト面を肌で体験できます。風景も高屋駅、仙人堂、上り下り時それぞれ素晴らしいです。これが本来(本道)の舟運の姿で、こうしたことを求めて旅しているのかもしれない。

岡本景子 縁結び神社の仙人堂に行くコースだから、何もない日本一素朴な高屋乗船場が「縁結び乗り場」になった。だから義経ロマン観光の舟下りコースを「縁結びライン」とした。どれをとっても素朴さと本物が受けている。多くの旅行雑誌に、「義経ロマン観光の舟下りは往復周遊コースなので車の回送代が不要のためマイカー派におすすめ」と紹介されています。一方他社の場合AからB地点への舟の移動のため、乗船料以外に車をA地点に取りに行く代行代が2500円かかること書かれていて、2社あることを知りました。(パワースポット使用の場合4000円)私も最上川義経ロマン観光の縁結びラインを渋谷の旅行代理店の手にも取ったこと。義経と最上川の関係を知ったように、最大のサービスは正しい情報を提供することが大切です。そこを思いも寄らないお得で新たな地域興しに結びつきます。このことにも奇なりお得でいていくんですね。楽しい観光地は点と点を結び、線になっていく面になっています。「縁結びロード」は、あの頃にタイム・スリップさせて、「歴史・文学・自然のおしやべり」を盛り上げてくれるところに、熱い思いが伝わってきます。それを盛り上げてくれるのが、素晴らしいガイドさんでした。

著者 ネット社会、小さなことでもすぐ世界へ情報が広がっていきます。ちよつとした切っ掛けによって新しい出会いが始まり、思いもよらない新しい場所に自分が立つて新しい出会いが始まり、私は仙人堂との出会いが、憧れの斎藤茂太さん(作家)、兼高かおるさん(世界の旅、下重穂子さん(作家)、池田理代子さん(ペルサイエンスのぼら)、今井通子さん(医学博士・登山家)、草笛光子さん(女優)、杉田房子さん(旅行作家)等、各界の著名人と出会いが始まり、観光のことなど多くの指導を受けておりました。また、仙人堂に祈願に来て大成を取っている人も多くいらっしゃいます。あなた方(4人の女性)も夢に向かっ歩いてるんです。私も夢にまで描いた小説やエッセイなど8冊も書けるんです。予期もしませんでした。縁結びロードを訪ね、何事もあきらめなければ、夢がきっと実現します。結びになります。車の回送代を不要にしたのは、不可能を可能にした、川上りを実現したからです。これが私たちのおもてなしの一つです。そのためには、失敗をおそれず、行動が大切なんです。(詳細は当社のブログもご覧下さい。)

最上川仙人堂の文字を目にして、仙人堂にやってきました。来た4人だったが、その後夢が現実となっていく。

岡本景子 大学の卒論を書くためにやってきました。「義経と最上川」の卒論が高く評価され、その後、テレビや新聞等に登場し、義経研究のスペシャリストとして活躍しています。

小林麻美 文学に仙人堂に6年後、多くの懸賞小説コンテストで新人賞を受賞。その高橋真理、歌手を目指していたが、仙人堂で道を通っていると知り、方向転換して音楽プロデューサーとして全国に名を馳せていく。

酒井 静 「一見の母として、質素ながらも幸せな家庭を築いていく。」  
-テレビ朝日系30分番組「私の郷土」芳賀由也に出演、俳優佐藤隆彦とのナレーションで、少年時代から仙人堂を巡らせるまでが紹介。  
-NHK版のCD「NHKサカサライブ」のみのく山形・清流のささやで、最上川舟唄を歌いながらのライブ案内が7回紹介。他多数の著書に小説「五月雨の頃」(義経と最上川)、「芭蕉と最上川」(毎日新聞・給本「うみのこ」)、エッセイ「義経を最上川に詠ませた男」(毎日新聞・山形版に3回の連載)等。